新板

毛郊像家圖

三之巻

遠
4661
9

龍初儀系図

三之巻

同縁

第一　千里の縁と万里で逢と虎義が知略

七人化粧の座とゆていまわ門が
胸さぐり切てきくとる虎義が方
さたちのぎたしーのぐ大勇のわ

1661
3

第二　名方いなくきこえ耳の穴へ小割のこ
巧みて結句ゑ[illegible]る。水牛の角形
みてもこうもれぬ田舎そぐらも
ねぐ矢番ゑ[illegible]ゆゑ大ゑものこわ
第三　六孫王いわ門まさうれ拾六人化粧
名わとゑ名保さうとゑ也繁の
男い秀ゑ乃ゑ名虎義と名
のゑされ合点乃伊基

一　子星の孫と百星でかへと虎義ゑ智略
英金の輝るも世と国と中は参ゑ加で蜀漢の義ゑ[illegible]も。
宮と防ぐ[illegible]い絆ゑ組ずとゑやはすおの宮元伊ゑ[illegible]なの名ゑ
加んやゑ[illegible]その移ふいはまゑ一重の英金截ゑ加でとゑ[illegible]を。
大よいろゑ府い国をうゑひゑ[illegible]と紙ゑの城ふおつゑゑ必せゑ
相も下伝ゑの平氏わ門ゑ身極ゑ天ゑゑの裔孫ゑ[illegible]
く一ケ国を平ゑ宇ゑ[illegible]ゑのゑ伊福寺絶ゑ[illegible]
事ゑ[illegible]一ゑ[illegible]ゑ鎖をわけゑ。
而天ゑとわゑやゑれんゑの[illegible]ゑ子
のゑんゑいゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ平[illegible]ゑ名
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

いさごうとしてあり。高代の御恩本うそ。
大ぜいを家来にしていた。七人づゝは御ゆるの御後あり。近くへ寄ていも
結ゆうわるいは。左之方ばかりそへ。そへの大わざ七人づゝはりそへ。
荘厳ひくやく。結構ばかりゆう。大秘伝の義と云なる。ぼんやりとられ
ゝ。幸行おもと名おりて。色ぐ大ぜいとい家のゝ。あくさて結と掛り
あいはもの大おい祝ゝ行ゝ。ぼうゝの御ゝ。ゝ。
よれおりの新しゝ。ゝ。ゝ。

三文芝居

小れうわらひをもよをす人今ハ此のをとこの法をとき仕ひて、ものもうさ
さすに年くに仕へて家にほうぶさうして年ハ六十に行わと今ハ二ぢの
人にうらひ物の例ハいかくの名わ御わ書ハ御のをとこ聞入て交
易をけるに一人を七人づゝ人をとらるゝの法花をおちひろい日本へ
ゆきべ来のびり。宇佐八幡の原の人を和わて一法をのゝ上へ。交
時の者にくまを方くいて様とれたてゝ上とゆゝ妙ゆ大ゆ万む
持ゝ四ゝの人ゝ七人ゝ出ゆゝ八ゝ奇術のゝ見ゝるゝの
わゝびのゆゝ人ゝ有ゝ。ゝ出ゆ高ゝ有ゝの人ゝ手ゝ絵ゝ者ゝ絵ゝ
行ゝ者ゝ行ゝ行ゝ。ゝ行ゝ絵ゝ描ゝて ゝ付ゝる ゝ者ゝ ゝ
とゝて。天ゝと ゝ者ゝ ゝ行ゝの ゝ者ゝる ゝ者ゝ ゝ
夕ゝ行ゝ。ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

せんぎ〳〵来さてあとゝしい。建たつ行のの命もつぞ。長い仕ばとでわやしき。
わ門いとゝ来のゝ上絵大七。七様狂行ひ扶海波ナ石つ仕事屋れ
い虎義。肩門建ろつ大ゝ三て七人ゝ人する。ゝ浦りのゝ上さ。仲
乃世今ゝ四七名と開く付。浦く返ゝて。ゝ四と尺やゝ。扶洲逆
いゝ来ゝ上て建ろつ名と寄て。わ門を伊ゝ上ゝ六七所ゝい三所
までいゝ上ゝ。ゝ浦ゝ七人ゝ人てゝいゝ上を西行。いゝ上と新も
ゝつゝ上ゝ。ゝ義のゝいゝ上。ゝつゝ上のゝ上ゝ。ゝつと感
ゝ上ゝ付ゝわ門ゝ来ゝ上ゝ。ゝ義の今上。建ろつゝ上ゝ。ゝ浦と
ゝ上ゝ。ゝ上ゝ上ゝ上ゝ上ゝ。ゝ上ゝ上ゝ上ゝ上ゝ。ゝ上ゝ上ゝ上

一そいに虎義おがらさどびきさろてやをんしたおそいとしさろくねろ私
と。おてとしいこりゃ成れ。ゆるぞごさろまするこ。東会さろ作さろんて。
ムをおのゆをんそりとおてろまりのぐんゆ。ろわぬを人化のゆをを
と人ぐげ。そと集考と新ぐろ成。おれんぐゆへかいてもすまぐき
やんてもなぐ。やろ打新をろ学ろ。骨打せらろぐ。てものぐ
きね命学後せると。一なとに接て切てろれいやの新たやど。こんとね
ゆいれかけつおぐつの切のをを。れいかやろて只一打と切付ると。ゆどに
てろいぐ。ゆをもんずてかいを。ゆをろのゆぐごくせけすもの
打門と肝とつぐ。物く我のわてるを五ろくめるか。ゆをの内
おををこ。ろぐてとゆべ。ゆ。遅ゆとかけのとろ。ゆ。伊ろたお遅ひよ
ゆまかとの事。件のろをと名ゆ。ゆめ。ゆまぐ屋新へゆろる

(二) 名方いろく。

ゆこの三位氏。ゆ。絶著と作てろを家し号の孔明にまんで。
八門陣列の家と作ゆされぐ年のわ門い。ゆの仕と作っておのれぐ
これおろぐごくゆ天を亜。ゆを通ぐとおろひい形とひってゆるかく
すれぐちちゆ散うせゆ。ゆい七人を形とつをゆろこく亜方自生
のゆおろとゆひってゆ。ゆろいいすろ及ぐゆ。遅さ水ぐゆへ作へを思れを
引。ぎろぐ。ゆ。ゆ。ゆ

月にわら半七日づゝ。くのごとくすまいをして。七十日がゝ程はは
きゝ。三百枚位の仰せのごとくなること百ケ條この人参四匁五ケ
十ケ。ひのごとくちらして。花みぢ。丹しゃ。ちゃ。ちゃ。
ちゃ。ちゃ。一ぞく。毎日喰ふる所いつゝ。ちゃ。
ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ

大ぶんのれいをいふも恐ばかりなれどもせっかくの遠人と云ふ
せけふ。伯父伯母の者の者多くの者の者の者の者の者の者の者の者
わいわいとも云はずさやうの者の者の者の者の者の者の者の者
なりてこんぶ新人参ゴ百匁行わるといふ。角いとこれて
百人の多い物でございます。ぶの大切なる仕事吉俵左衛門
れとゆゑ。屋敷の者の者の者の者の者の者の者の者の者の者
乗りて高位好女二人の中にせんとや性悪わるて。み新やと
つゝ大福者の方へ。貸ていてゐるとひとゆゑ。貸ていて医
ゆめきてのこんぶ。ぶ字いへて。ぶ笑ふさ仕ませて。角のまくして
ぶ。ちかぶ出ぶ。伯ゴ下給。仕で。お馬新の目利ちかいちぬ
ちわるれ。ゆゑ。ぶ者の者の者の者の者の者の者の者の者の者
屋角もんとまのない医者ゆゑ。ぶ。初てみてゐらてゆ伯父さん

まんぢゅうくまがゐまで。ぶ。ぶ医者れ。それい
然時のるでございます。薬わ行れて大切の者ゆゑ。ぶ。ぶ
さけすりかぶ。ぶ。ぶ。

けのあるものとゆうぐらいなってかまくらのそばにすわっているののあしがかそ
であらうぞ。ばくろうきくもうてびちまちうのかたちをしてゆうろ
りゆうはあどうゆうゆえもあるがめそ。百りのあくしゆ世方面倉中方
あるの面倉。者奉の者奉のあいだ大きいけてすぐに面倉へ行くうとと
きくいゆえとうってとうしてくるとうというこれがくるといってゆうこうう
いだくくるる者奉のいゆえとと東に行くで去るのがあるくるゆう
ちしゆせのゆとそでいのくるるかいに宿およ入て行よさくるこ世と
ちぎ行るそおくゆえ。たくとゆるくそしてしたついて。男分法のおくく。
力と入てくる時いゆし行とゆるくるゆめくらどもくゆ仕ゆのよくるゆめく
とうくゆいかのいくできゆゆ。詩くくとおれくくいるくれゆ
ゆうの新くらいゆ者行しすゆ。常くれたくくるくるゆくゆしゆう
く。只世界に面るゆくいいのゆくくゆ毎日くくくみゆと。

ゆうそかくくくくゆ者行くゆくくくゆゆくくなれくくゆくくて法
けるゆゆくゆくゆくくくく

神軍こゝろもとにいはさしと場〳〵洋を吾ぐてはそ海うけ
きゝ岡吾せこゝろ天力るくつめよはしこうけるはないわ門いまぐ
成とも海の天よはてるしのめ者まるるうけるはる逃くに於へ
はくしうゝ古孫をつゝもゆ事者を表に平のゆ者ゝ方豊と
三天ねくてはるくはるるぎは。神屋をはそ伝付れ。六孫まく方豊
い和とゆてもうゝ天。まゝい孫ゝまるゆ方くて五人の平の
四ゝ人伝付れはさゝとゝ和りよ。新廷ゝいう山孫伝ゆるつるや
らん。二番ゝの小者ゝ平い伝付れどゝ三番めの平ゝ方ゝ方代よ
伝むされ。稲とゝびゝ也ゝてゝけゝ。わ門ゝくゝい山者ゝ方ゝ故郷ゝさ
るゝて。古孫ゝまゝて方ゝ方ゝ下四ゝわゝいゝ方平のゝ方ゝそい物ゝ和ゝゝ
くゝはゝはゝゝゝ方ゝゝゝ

面すびとて遊び物よ。立の行水やとゝいづれも人口をはなれず。信者
なる云和尚妻にうりとゝめしいっ社ふ家の作りたる山の孫といかど
ろまきるつぎ。先年とて者ども初とのぐるゝ附ぬこと上山行義を拾こさ
きゆゝ屋の脇ぐさくゝ雨ふるもうくゝの市者ゆゝべきやるも
なり。別行義仮い間分行眼とつきたゞで山者ゆゝ人ちゝれぬ
ゆゝゝうひ。おゝたゝきゝ者ゝ平とゝ人さゝ仏ゝのゝて
けものくゆゝうとゝ。ふ者ゝがおゝゝ。黄ゝゝて付てゝゝゝとゝ。おゝさへ
のゝゝゝ

さしたる関八州の者共わかい七人ゝ五郎左のナ吉人ゝ。肝とはぐを
いかなる人ぞとのゝしるに。わかいかしが四代の孫
ども祖父ゆめまさりの人物に。こゝろみのやうに
うゝゆゝしわたしうち。実信わうて高代の業とてゝさしたる業と承
りゝゆゝ。極老が後代のあの系。おいよが伝の言葉
の書まぢつけてあるわれとうつけさせ。世の方者余の今子
きゝおろうち。それ〳〵其つ今子と知るとあれいか〳〵こまりて也物
といろ〳〵。其今三梓と元滅やうびと紙会ろうに。水牛の角
を結梓樣して奏つゝ。しを刃にわるけいたゞくやうぎて鞆
のぐ〳〵ゝるといろのあり。秘方にて人出ろゆゝわ門が後効
にわゝ長とゝひいにゝろうみゝろうゝめるこそ。奏はゞ一所
こそいうぐるれゞも。ゝく心のうつて紙いゞろ寺とゝるあ

うゞいづしもゆ安ばいゝ〳〵ゝぞゝ〳〵ゝ。ぶたゝ。ゝ法ろうゝゝそゝ〳〵ゝや勝
ろうゝ〳〵ゝ。ゝ法紙所ゝろうて。宮の一天よ及べゞ表ゝて。月ろ
の平書とゝ。ゝ二法とゝゞ。いづれし。遣六月とて。ゝろゝ。ゝ方
ゝんゝの月ゝ。ゝ也わ門方ゝゝ。城郭とゝろ。神よの軍ゝ。奉術
とおゝて。ゝ交軍ゝろよゝうぎろうほ。ゝん一人ゝて。檜よあゞゝ。二交
の宮ゝ。ゝ七人ゝ。ゝ人ゝするろゝと。檜のおゝとゝしるゞゝゆゝ及ゞゝろよ
ゝゞゝゝ。ゝ神交のゝろゝゝ。ゝゝく味方に。ゝ月ゞゝゞゝとゝて
つて。ゝろゝけゝ。ゝ也ゝて。ゝ代月わゝに。ゝ育ゝとゝゝろゝゞゝ。ゝ走ゝろ
ゝゝゝゝて。ゝゝゝ。ゝ。ゝ。ゝゝと。ゝ七ゝ。ゝ。ゝ。ゝゝて。ゝゝゝゝゝゝ
ゝて。ゝろゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

わ門左すの舟に七人くぶの下ゆくしをひくはいびきとうろ絵色
はいらくくうとゆるきすとそれるちぶのさねゆ左門ゆいかも
尺ぞそとわ門ゆちぬそ人をうつけ岡ちとも乙ぜゆ七眼
弦を今のせこわるゆぶよれよび来れうぞうろ表つぬの見発
とゆて建をうをつしゆこそ十六角いうををうれ
ぞゆわ門ゆてをとちぶすぐ〻軍へ辰の上ゆよ格う歌法方
今ぶれ出ををとちして我ひうゆわ門ゆうきやぶ〻ゆのゆうて下和
すうゆて。ゆうへぶぞくよゆのたわ六弦を行基たちまちに。
十二人と分を良ぶのへゆわ門方にへ股肱の臣下七人分ゆ。
は林とうををうちのうけとべ七人を変ずるとさん。変ぬよ
うををゆうゆうう。今毒老を六弦をこをわ門はいはううう
林をくゆはくゆぶくとゆぶぞをゆうぬすゆゆわ門ゆ

わ後ゆ殺い六弦をしゆけうをとうををうう。ゆううゆぶゆくを
くくうゆをゆ左奇ゆゆうををゆうう基う勢ゆ人ゆ居のくゆをを。
ゆ左ゆ芝居ゆ行ゆみゆおくくう格ゆゆひゆうをとまゆず。ゆしをも合ゆ
ぶどゆ。ゆゆゆ七人ゆぶゆを出をゆわゆゆはゆをゆくくはゆ格ゆをゆゆはゆをゆうぶはゆ
をひゆはゆる眼ゆぶゆうき麻ゆぶちゆみをゆぶずゆしゆは六の勢ゆうゆ国ぶゆはぶ
ゆゆうゆゆゆのゆうゆゆゆ左ゆゆ。ゆ義ををゆゆう舟矢戦を作ゆゆて火船を
ゆを。ゆゆ。ゆゆうをゆゆくくゆゆゆゆゆゆうゆゆゆゆゆゆ

四ようれいい塩づけ入樽よのごとくして大きあげかふとの眉取ふくろうくわて
ちはまこの童子いんはさ表紙はしくいかるゆ形式へしくいかるひこ
表紙ひとるゆ形式へしくいかるひこ表紙の表紙はまつ仕様ひ世界の
かいかせあわるとふいあの仕様和い海よつ七元義ひんとれるひと
ふくれいわんがみてあの仕様ふくれいかてのけつわとひで
わんがら矢造えつよらとひんさあひぶくとゆくとふ形らつあてたひ
あのうきくまろらでくあせびあやまくずれへいがこあひの鍵のゆいれくし。
あがらいなるくさ。樽のよくまろくさあゆよ表るあと。ふの歌くそ与豊
よて前くとうけいひえれ古様と指どきつくて就仕あひされどくのは。
いひゆのく仕まくいくやひくこの仕へ表くくくそくう
あくまろくくくるるひびがでひんすくされるれいち人
わの前紙表紙古みあの五ひくさしくそひ表ひの孫孫孫